



この恋は すべてを狂わせる。

哀しみのシレーナ ～禁断の恋～

TRISTEZZA DI SIRENA ~ AMORE PROIBITO ~

～ 全5幕のあらすじ ～

第1幕 「宿命の出会い」

月夜の静寂の中で、深海に棲むという人魚シレーナの誘惑の歌声が聞こえてきます。人間に殺された母の恨みを晴らそうと、途切れることのない憎悪の念を抱きながら、今日も獲物の船乗りを探しています。父の遺志を継いで、船乗りになったネレオ。にぎやかな港町で、意気揚々と船出の準備をしています。船乗りを魅惑の歌声で惑わし、大海の底に引きずり込み、その生気を吸うという人魚に父を奪われ、仇討ちを決意したネレオ。オトリの歌を歌い、シレーナをおびき出そうとします。ネレオは、シレーナの怪しい魔法の歌声に引きずり込まれてしまいます。しかし、シレーナは、その美しい歌声のネレオを見て、一目ぼれし、二人は魔法にかかったように求愛乱舞をします。このまま永遠に、シレーナの愛の世界で生きようと決意したネレオの独唱で終わります。

第2幕 「虜囚の女王」

夜闇の月光に光る静かな海面。それを見下ろす岸壁の牢獄の窓。悪い船乗りたちの罠にはまり「生け捕り」にされ、牢獄生活を孤島で送るシレーナ。悲嘆にくれた痛々しい姿のシレーナ。助けてくれなかったネレオへの恨みと切れない情の中で、いつまでもネレオに思いを募らせ、かすかな希望を感じさせるシレーナの瞳。シレーナ救出を決意するオンダとアズーラ。妹を想い、母の復讐に燃える二人の嘆きを切々と歌い上げます。嵐の夜、女王シレーナを救おうと人魚の大群が押し寄せて来ます。心ときめき、解放を待つシレーナの鼓動と牢獄を打ち壊す激しい打音。人間たちの抵抗にあいながら、命からがらクジラの背に乗って、海底宮殿に帰っていきます。

第3幕 「恋慕の日々」

海底の居城に戻されたシレーナは、以前と同じように、船乗りたちを惑わす歌を歌い続けます。人間にだまされたにも拘わらず、いまだ諦めのつかないシレーナを戒める姉たち。恋慕と恨みの相克した葛藤の中で、一人迷い、舞うシレーナ。シレーナは、深海から大海原へ、遠い水平線の向こう側にいるに違いないネレオの元へ届けと言わんばかりに歌い続けます。ネレオへの未練は募るばかりです。でも、姉達は絶対に許しません。水平線の彼方から、シレーナの歌声に反応してか、懐かしいネレオの歌声が、かすかに聞こえてきたような。また会えるのではないかという希望が湧いてきます。

第4幕 「切れた糸」

シレーナを見捨てざるを得ない結果に終わり、後悔の念に苛まれ、古びた港町で酒浸りになるネレオ。シレーナに会って許しを請いたい、もう一度あの別世界のような愛の舞を二人で舞いたいと切望する心の苦悶を歌いあげます。突然、ネレオに運命の船出のチャンスが到来します。沸き立つ胸の中。また会える、きっと会えると意気込んで出航します。海のかなたで、シレーナの肌に感じるあの愛しい歌声。ああ、どうしても、もう一度会いたい、届け私の声。しかし、ネレオへの歌を姉達に妨害されてしまいます。叶うことがない恋、すれ違う二人の歌声。船は無情にも、シレーナの頭上を通過して、ネレオの絶叫とも思える悲痛な叫び声とともに、水平線に消えて行ったのです。

第5幕 「月夜の狂歌」

ネレオと引き離されたシレーナは、失意のあまり気が狂ってしまい、病床に伏せてしまいます。女王シレーナは、もうかつての威光を失っています。毎日姉妹3人で仲良く歌っていた晴れた月夜。変わり果てたシレーナの姿にショックを受けた長女オンダは、重責と寂しさのあまり、亡き母への追慕に逃げて、心を閉じてしまいます。次女アズーラは、自分がシレーナの代わりにとネレオへの一方的な恋心を増長させてしまいます。純真さのあまり、シレーナへの背信とは気づかず、ネレオへ愛の告白を歌い始め、月夜の海をさまよいます。シレーナとの再会は幻に終わってしまい、後悔と恋慕の念で、すっかり心を病んでしまったネレオ。いつもシレーナがそばにいるという幻覚に身を焦がし、冷たい月夜に発狂してしまいます。ネレオとシレーナの禁断の恋は、すべてを狂わしてしまったのです。